

福井県における郷土史研究の動向 〔平成26年〕

「福井県ふるさと文学館」が平成27年2月福井県立図書館内にオープンした。図書館・文書館・文学館の3館が併設している特徴を活かした活動をしていく予定である。また、「福井県立若狭歴史博物館」（旧若狭歴史民俗資料館）は平成26年7月にリニューアルオープンし、入館者数を飛躍的に伸ばした。

次に平成26年に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

#### ■宗教

福井市美山公民館は『調査報告書みやまの越前狛犬』を作成、同地区内に所在する神社52社の神仏、札、絵馬、狛犬など収蔵品を悉皆調査した。小浜市出身の竹中敬一氏は『若狭地方の海幸山幸物語』を発行。若狭地方に伝わる口伝えや文献などから海幸山幸神話の原形を探る。

#### ■自治体史・地域史等

勝山市は、市制60年を記念して『ものがたりかつやまの歴史 上』を刊行。これまで刊行された『勝山市史』を基に、イラストや写真を豊富に使って読みやすい市史を目指した。越前市は、『越前市史 資料編5』『旗本金森左京家関係文書』を発刊した。資料編だけで28巻の刊行を予定しており、今回が三巻目となる。

「戦国ふくい」の文化遺産活用実行委員会は、『概説朝倉氏の歴史』を刊行。カラー写真や図版を多用した親しみやすい一冊となっている。福井市文殊地区の「村の歴史懇話会」は『温故叢談第十号』を作成、方言や昔の暮らしの様子などをまとめた。福井市新田塚郷土歴史研究会は、

『ふるさと越前の歴史発掘』を発行、地域独特の歴史に付随した伝説や伝承をまとめた。小浜市松永地区は地区の逸話などをまとめた『そら知らなんだ！松永の歴史を語ろう』を発刊した。小浜市の大森和良氏は、『風の吹いてきた村韓国船遭難救護の記録』を刊行、平成12年に出版された同タイトルのものを平易にまとめ直した。勝山市のかつやま子どもの村中学校は『中学生が書いた消えた村の記憶と記録』を発行、子どもたちが現地を訪ね、消えた村のくらしや歴史、消えた理由を追及した労作。

鯖江市の柴田成一氏は、『水戸天狗党 越前の道』を出版。水戸浪士「天狗党」の県内の足跡をまとめた。一方、若狭路文化研究会は『水戸天狗党敦賀関係史料』を刊行。公文書で天狗党の足跡をたどり、解題を付した。野尻泰弘氏は、鯖江藩の大庄屋をまとめた『近世日本の支配構造と藩地域』を発刊。鯖江市の河野通弘氏は、『探古・長泉寺二十六坊の歴史』改訂増補版を発行した。鯖江市下新庄公民館は地元区民の家紋や屋号をまとめた『下新庄の家紋と屋号』を発刊、235軒分を調査・収録した。旧北陸道を境にした南越前町東大道、西大道両区の有志が、5年を費やして『大道誌』を編纂、交通網、災害・民俗など12の項目についてその変遷やいわれなどをまとめた。越前町の中橋鉄治氏は、『俱会一処く寶樹寺&干飯浦の歴史』を発行。美浜文化叢書刊行会は、美浜町中心部にあった旧耳村の行政と歴史を伝える『耳村誌』を発刊した。大正12年に編纂されたものの未刊行だった原稿を判読し91年を経て出版にこぎつけたもの。

#### ■史跡調査報告書

福井県教育委員会は、『浅見堂ノ北遺跡 藤巻館遺跡』『上蔵垣内遺跡』『糞置遺跡』『曾根田遺跡』『堂山城跡・谷口西谷古墳群』『中保小政戸遺跡』『福井城跡（遺構編）』『横枕遺跡』などを、勝山市教育委員会は、『三谷遺跡』『史跡白山平泉寺旧境内総合事業報告書』を作成した。

## ■人物

福井県立こども歴史文化館は『ふくい先の先人たち 近現代』を刊行。シリーズ第五弾となる同書では、日本美術を西洋に紹介した岡倉天心をはじめ27人について解説する。勝山市の佐野光臣氏は、『泰澄和尚伝記 現代語訳』を発刊、平成元年刊の『泰澄大師御母のふるさと・勝山市猪野』中の「泰澄和尚伝記」を底本に現代語訳を試みた。鯖江市教育委員会は、鯖江藩七代藩主間部詮勝（あきかつ）を紹介する『間部詮勝ゆかりの地ガイドブック』と『漫画人物史』を制作。福井市森田公民館の歴史学講座の有志は『脇屋義助と石丸城』をまとめた。中学生向けにカラー図版やルビなど工夫をこらした一冊。梅田昌彦氏は『梅田雲浜入門』を刊行、雲浜の生涯のほか、顕彰事業の紹介や雲浜についての文献案内をまとめ、小浜市の村上利夫氏は『梅田雲浜の人物像』を出版、功績があまり後世に伝わらなかった理由などを明らかにした。

## ■地誌・ガイドブック

実業之日本社から出版された『意外と知らない福井県の歴史を読み解く！福井「地理・地名・地図」の謎』は、新書版の手に取りやすい装丁で80近くの疑問に答える。敦賀市出身の内池久貴氏が出版した『福井の逆襲』は、様々なデータを基に福井県を分析した郷土愛あふれる一冊。勝山市は、『勝山まちなかガイド物語』改訂版を発刊。坂井市丸岡観光ボランティア協会は、小冊子『丸岡城とその周辺観光ガイド』発行した。

## ■各分野団体史

福井県立鯖江高等学校は、『創立百周年記念誌』を発行、写真を多用し、校舍だけでなく制服、学校祭などの変遷もまとめた。福井県立福井農林高等学校は、『福井県立福井農林高等学校百二十年史』を発行した。敦賀市サッカー協会は、創立50周年を迎え『記念誌』を、敦賀市剣道連盟は、『創立60周年記念誌』を発刊した。小浜市の観光ボランティアガイド「若

狭の語り部」は20年の歩みを振り返る記念誌『かたりべ』を作成した。大野市消防団は『大野市消防団設立60周年記念誌』を発刊、大野市の大火の歴史もまとめた。敦賀市のNPO法人ウエットランド中池見は、『ウエットランド中池見10年のあゆみ』をまとめた。県更生保護女性連盟は『50周年記念誌』を発刊した。

## ■教育

大阪大学の志水宏吉氏らは『福井県の学力・体力がトップクラスの秘密』を出版、教師、親、生徒を幅広く取材し一冊にまとめた。勝山ロータリークラブは、勝山市出身の教育者の生涯を綴った『木下竹次の生涯と教育』を発行、子どもの学習意欲をかき立てる「奈良の学習法」を確立した実績などを紹介している。

## ■民俗

福井市の坂下淳子氏は、民話集『むかしむかしあったんやと おまけ』を発刊。これまでに10冊の民話を発刊したが、14年ぶりの発刊にこぎつけた。敦賀市の柴田亮俊氏は冊子『もっと知りたい敦賀の魅力 ふるさと再発見』を発刊、同市内の天然記念物や歴史、民話を中心に全20話を掲載している。大野昔ばなし再話研究会は『昔むかしあるところ』大野の昔ばなしと伝説』を発刊した。巻頭には、舞台となった場所の写真も載せた。勝山左義長文化財推進協議会は、まつりの歴史と伝統を描いた絵本『勝山左義長まつり日記 ボクたちの出番』を制作、左義長太鼓を始めたばかりの少年の目を通し、まつりの魅力を多面的に描いた。勝山市教育委員会は、勝山市内にある石碑の分布調査の報告書『勝山市の石碑』を発行、幕末の勝山藩家老・林毛川（もうせん）の遺徳碑から忠魂碑、農地開墾の歴史を記した記念碑まで547基の石碑を網羅した。勝山市の山田雄造氏は、『勝山の街並み散策』を発刊、市内の坂道や町家、寺社や石碑を紹介している。鯖江市教育委員会は、市内に遺された石碑・

墓碑を対象に文化財悉皆調査を行い、歴史的価値のあるものを『鯖江市内石碑調査概要報告書』にまとめた。あわら市の市民グループ「活声塾」は、『あわらの民話』を作成、地名や寺社建立の話など20話を掲載している。若狭路文化研究会は、『若狭湾沿岸の産小屋資料集成』を刊行した。若狭湾沿岸地域に所在する産小屋に関する文献を取りまとめ、解題を付したものの、四日市大学教授の高島慎助氏は、『福井の力石』第2版を刊行。新情報を加え816個の力石を紹介している。

#### ■自然

大野市の大野地区まちづくり推進協議会は、越前大野城がある亀山についての記録誌『亀山の魅力 植物と史跡』と『亀山の魅力―紅葉と天空の越前大野城から見た街並360度―』を相次いで作成した。

#### ■土木・建築

公益財団法人県建設技術公社は、設立20周年記念事業として、橋や道路など社会資本の戦後の整備状況をまとめた『戦後福井県社会資本整備年表』を作成した。地域環境研究所は、『川と生きる福井の歴史』を刊行。豪雨災害を防ぐ治水の大切さと強調する一方、まちに溶け込む身近な川づくりの必要性を提言している。福井県は、敦賀市・南越前町の『近代化遺産周遊ガイドブック』を作成。旧北陸本線隧道道群を中心に、北前船や敦賀港について小冊子にまとめた。おおい町教育委員会は、名田庄納田終地区に建立されたと伝えられている神社についてまとめた『加茂神社舞堂保存修理事業報告書』を発刊した。

#### ■産業

福井市の西川誠一氏は、『河内赤かぶらとじじぐれ祭り』をまとめた。県伝統野菜の一つ「河内赤かぶら」と90年の歴史を持つといわれる「じじぐれ祭り」の資料集となっている。敦賀市出身でJR西日本OBの谷口昭夫氏はJR北陸本線の130年余りの歴史をつづった『萬世永頼』北

陸線を走った列車たち』を刊行、年代毎のダイヤや主要都市を結んだ列車の変遷などを詳細にまとめた。

#### ■芸術・スポーツ

坂井市の印牧邦雄氏は『三国港町の名所旧跡と文化遺産』を出版した。昭和44年刊の『三国の史跡・名勝・文化財』を改訂したもの。小浜市の岡村昌二郎氏は、脚本集『皇子塚幻想』刊行、若狭地方を舞台にした脚本10本を収めた。「福井山歩会」は、福井県の山歩きガイドブック『登ってみねの福井の山』のVOLVOL・7を発刊、10年ぶりの改訂になる。

#### ■文学

県詩人懇話会は、県内各地で開いた詩の教室で作られた詩に評を添えた『ふくい子ども詩集』を発刊。また、若狭地域の女性文芸グループは同人誌「文芸若狭」を創刊した。

#### ■歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。福井県文書館は、「水戸天狗党 敦賀に散る―蜂起150年―」「若き春嶽の毎日―新発見の御用日記から―」、福井県立歴史博物館は、「敦賀湊と三国湊」「越前に由利公正あり」、福井県立若狭歴史博物館は「仏教絵画の華」「黄金の造形」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は、「戦国時代の金とガラス」「我が国初の戦国大名 朝倉孝景の実像」、福井市立郷土歴史博物館は、移転オープン10周年記念特別展「合戦―生き残り、未来のために―」、大野市歴史博物館は、特別展「大野出目家の能面」、鯖江市まなべの館は「間部詮勝の時代」みくに龍翔館は「十郷用水ものがたり」をそれぞれ開催した。

以上、紙面の都合上により、個人史、抜刷など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。